

北海道身体障害者新聞

発行人
一般社団法人
北海道身体障害者福祉協会
会長 田中利和
札幌市中央区北2条西7丁目(かでる2・7)
電話 011-251-1551
FAX 011-251-0858
北海道障害者社会参加推進センター
電話 011-251-9302
隔月 25日発行
会員購読料(年) 90円
(会費を含む)
非会員 同 2,000円

手話施策推進法

令和7年6月25日、手話に関する施策の推進に関する法律が公布・施行されました。

【目的】

手話がこれを使用する者にとって日常生活・社会生活を営む上で言語その他の重要な意思疎通のための手段であることから、手話に関する施策を総合的に推進することを目的とする。

【基本理念】

(1) 手話の習得・使用に当たっては、手話が必要とする者・手話を使用する者の意思が尊重されるときともに、手話の習得・使用に関する必要かつ合理的な配慮が適切に行われるために必要な環境の整備が図られるようにする。

(2) 手話が長年にわたり受け継がれてきたものであり、かつ、手話により豊かな文化が創造されてきたことに鑑み、手話文化の保存・継承・発展が図られるようにする。

(3) すべての国民が相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に資するよう、手話に関する国民の理解と関心を深めるようにする。

【国・地方公共団体の責務】
国・地方公共団体は、手話に関する施策を総合的に策定・実施する責務を有する。

【基本的施策】

- ① 手話が必要とするこどもの手話の習得の支援
- ② 学校における手話による教育等
- ③ 大学等における配慮
- ④ 職場における環境の整備
- ⑤ 地域における生活環境の整備等
- ⑥ その他の手話の習得の支援
- ⑦ 手話文化の保存・継承・発展
- ⑧ 国民の理解と関心の増進
- ⑨ 手話の日
- ⑩ 人材の確保等
- ⑪ 調査研究の推進等
- ⑫ 国際交流の推進
- ⑬ 手話を使用する者等の意見の反映



北見身体障害者福祉協会 障がい者脳活折り紙教室

去る6月18日(水)、北見市総合福祉会館で、工藤睦子氏を講師にお迎えし、「障がい者脳活折り紙教室」を開催しました。
会員15名の参加があり、折り紙で立体的な「コマ」を作成。幼頃からなじみのある折り紙なので容易に作れると思っていました。が、なんと難しいことか。でもその難しさが頭の体操になり心地良くもありました。

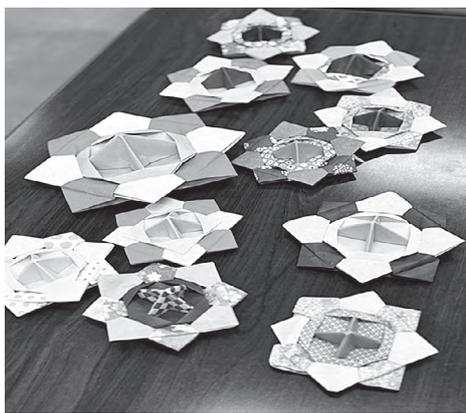


わかりやすく丁寧に教えていただきました。

「コマ」は、3枚の折り紙を重ねながら作っていくもので、指先を器用に使わなければなりません。多少ズレたとしても、きちんと折ることができなくても全然大丈夫です。

「私には無理だあ。」という声も聞こえてきました。講師の丁寧な指導で全員きれいな「コマ」を作ることができました。
折り紙は小さな紙ですが、出上がった時の達成感や充実感はとても大きいです。

インターネットで「折り紙」を検索すると、折ることで物忘れが減るとか、認知症のリスクが下がるとか、メリットがあるということもわかってきているとのこと。しかも、わざわざ折り紙を買わなくても新聞等に挟まっているチラシでも活用できて、お財布にもとても優しく、気軽にできます。1人で黙々と折れるし、大勢でも「色合いが素敵！」とか会話を楽しみながら折ることが出来ます。

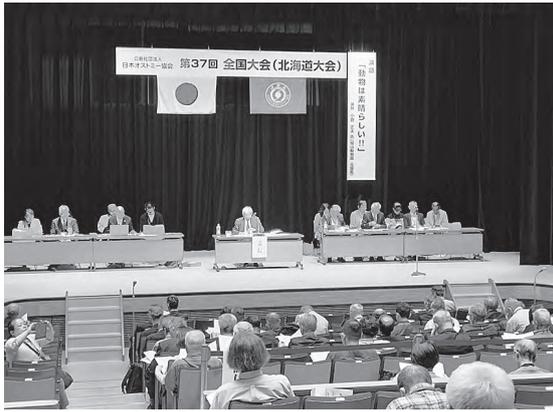


色とりどりの作品ができあがりました。

来年の事業に何をしたらいいのか悩んでいるのであれば、迷わず「折り紙教室」を推奨します。
今後、折り紙を折り続けることで「あれ、あれ！」や「なんだっけ？」が減るかもしれませんね。

日本オストミー協会 全国大会（北海道大会）

令和2年6月に予定し、準備も着々と進んでいたのですが、新型コロナウイルス感染症拡大により4月に入ってから急遽中止になり、今年、令和7年6月14日(土)15日(日)の2日間、札幌市教育文化会館で盛大に開催されました。
全国のオストミイト、ご家族、医療関係者、一般市民総勢310名が参加しました。



札幌市教育文化会館にて6年ぶりの開催

1日目は、日本オストミー協会会長の挨拶、分科会、支部長会議、若いオストミイト交流会、ウロ・コロ・イレオ合同交流会で各支部より活発な意見交換をしました。夕方からはホテルに場所を変えて懇親会を行い、楽しいひと時を過ごしました。



協会功績賞と協会功労賞の表彰
(8名) (9名)

2日目は、午前には式典と定時社員総会を行い、式典では協会功績賞8名と、協会功労賞9名が表彰されました。
午後からは、元旭山動物園小菅正夫園長による講演「動物は素晴らしい！」でした。
無事に閉会を迎え、長かったような短かったような2日間で、準備等々では大変でしたが、楽しい全国大会でした。



来年は山口県で開催されます。

十勝地区身体障害者福祉協会 第58回とかち身体障がい者 スポーツ交流大会

7月10日(木)、帯広市内のよつ葉アリーナ十勝で開催しました。昨年までは、各町村の持ち回りで開催してきましたが、会員数の減少と各町村の負担が大変になってきたことで、今年から管内の中心部である帯広市での開催となりました。



メイン競技の「ボッチャ」です。

申込時には、管内11町村10名でしたが、当日は、10町村94名の参加となりました。
交流大会は、スポーツに親しむ機会を作り、町村間の交流と障害者への理解を広めることを目的と

して行っています。この度、帯広ボッチャ協会・帯広かしわライオンズクラブさんが趣旨に賛同し後援してくださいました。

種目は、ボッチャと恒例のじゃんけんゲームです。帯広ライオンズクラブの会員が参加者の誘導を、帯広ボッチャ協会が競技の進行を担当し、帯広コア専門学校の1年生も運営を支えてくれました。

メイン競技のボッチャは、白い目標球にどれだけ自分のボールを近づけられるか競うスポーツです。視覚障害者も楽しめるようルールを一部変更し、町村混合の20チームに分かれ競ってもらいました。盲導犬を連れて参加してくださった方には、目標球の位置を手でたいて知らせてもらいプレイしました。

会員さんが目標球付近に投球すると、どのコートからも歓声や拍手が聞こえてきました。ボッチャポランティアの専門学校の生徒さんも最初は緊張していた様子でしたが、ゲームが進むにつれ笑顔になり、元氣いっぱいいの声で応援していました。

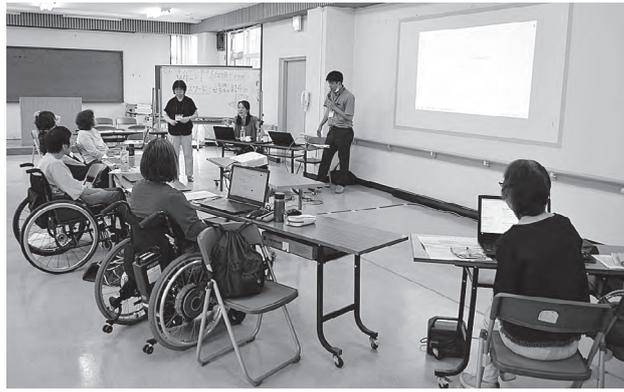
恒例のじゃんけんゲーム大会には、生徒さんにも参加してもらい楽しんでもらえました。

会員さんも生徒さんも「楽しかった。」と笑顔で帰って行かれたので、交流大会の目的が達成できたと思います。

障がい者パソコン教室

新ひだか町静内
身体障がい者福祉協会

令和7年7月2日(水)3日(木)、新ひだか町社会福祉会館にて、柴田悠理氏を講師にお迎えし、障がい者パソコン教室を開催しました。



「CHAT GPT」で、技術力アップ!

1日目は、最初に「AIとは」について、続いて「CHAT(チャット)GPT」の使い方を学びました。2日目は、1日目に学んだことを生かして各々のサークルロゴのイラストや暑中お見舞いの依頼文づくりをしました。
参加者同士、交流や親睦を図りながら、楽しいひと時となりました。

砂川身体障害者福祉協会

令和7年7月14日(月)15日(火)、砂川市地域交流センターにて、平澤日出夫氏を講師にお迎えし、障がい者パソコン教室を開催しました。

1日目は、パソコンの基本操作を教わりながら、インターネットの接続方法やWi-Fiの使い方などについて学びました。2日目は、画像の取り込み方法を学び、オリジナルのTシャツを作りました。好みの画像は風景やキャラクターなど様々で、プリントする場所も腕や胸や背中などいろいろでしたが、参加者の中には9月の全道スポーツ大会で披露したいと言う方もいて、熱のこもった素敵な作品が出来上がりました。



オリジナルTシャツの完成です。

石狩市身体障害者福祉協会

令和7年7月23日(水)24日(木)、石狩市総合保健福祉センターにて、渡部辰大氏を講師にお迎えし、障がい者パソコン教室を開催しました。

1日目は、パソコン入力の基本としてローマ字入力を学んだあと、AI(エーアイ)についての基本的な知識を深めました。2日目は、AI(エーアイ)を活用し、各自が考えたシチュエーションをもとに絵を描いてもらう実践的な活動を行いました。



たくさんの作品ができあがりました。

会員の皆さんの具体的なアイデアがイラストとして形になる過程では、多くの方が感動されていました。

滝川身体障害者福祉協会

令和7年8月5日(火)6日(水)、滝川市三世交代交流センターにて、障がい者パソコン教室を開催しました。今年も滝川市社会福祉協議会の尾西良介氏を講師に招き、「アイロンプリントで作る巾着袋」に挑戦しました。

参加者は、11名。



オリジナル作品に個性が光ります。

参加者は画像を編集・印刷しながら、思い思いの作品を完成させました。初めてパソコンに挑戦する人は、「みんなに教えてもらいながら、楽しく作品を作ることができました。」と話していました。作品ができあがると、みなさん自分の作品に満足そうな表情を見せていました。2日間にわたって開催されたパソコン教室は、延べ22人が参加し、楽しく、熱心にWordの画像操作などについて学びました。

檜山地区身体障害者福祉協会
第1回スポーツ交流会

昨年は、スポーツ大会第50回記念とし、今回はスポーツ交流会第1回と名称を変えて、令和7年7月8日(火)、47名の皆さんが集まり、江差町まなびつくく体育館にて交流を図りました。檜山地区におきましても会員数が少なく、3協会が退会する実状にあります。そのようなことから、町対抗ではなく参加者を混ぜて、1チーム5〜7人で5チームをつくり、「ゲーリング」と「モルック」を実施して楽しみました。



今、流行の「モルック」です。

各チーム即席なのですが、なんと皆さんの上手なこと、声を掛け合い、狙いを定め確実にスキットルを倒し大きな歓声が上がっていました。熱気を残し、にこやかな笑顔で会場を後にすることができました。

賛助会員の皆様へ
心より感謝申し上げます。

「障害者の福祉の向上に寄与する」という本協会の趣旨にご賛同いただき、ありがとうございます。

- ◆ NPO法人 ホップ障害者地域生活 支援センター様 北海道宏栄社様
 - ◆ 社会福祉法人 旭川健育会旭川美景園様
 - ◆ 社会福祉法人 厚生協会わかふじ寮様
 - ◆ 株式会社 田村義肢製作所様
 - ◆ 社会福祉法人 北海道拓明興社様
 - ◆ 株式会社 馬場義肢製作所様
 - ◆ 社会福祉法人 北海道光生舎様
 - ◆ 株式会社 札幌義肢製作所様
 - ◆ 岩崎電子株式会社様
 - ◆ 有限会社 岩見沢義肢様
 - ◆ NPO法人 砂川つばさ様
- (令和7年8月末日迄分)

一般社団法人日本義肢協会会員

株式会社 札幌義肢製作所
代表取締役 関 喬
札幌市中央区北五条西十一丁目六
電話代表 (011) 241-0986

有限会社 野坂義肢製作所
札幌市中央区南三条東四丁目
電話 (011) 221-1406

株式会社 馬場義肢製作所
函館市豊川町一五の二 電話 (0133) 331-1555
札幌市北七条七丁目 電話 (011) 741-0333
室蘭市母恋北町三の六 電話 (0143) 355-2959
釧路市富士見一五の九 電話 (0154) 413-5466

株式会社 田村義肢製作所
札幌市中央区北四条東五丁目
電話 (011) 221-7777
帯広支店 帯広市大通南十五丁目二十番地
電話 (0155) 271-2489

安心と実績で全道をネットする
認定補聴器専門店

岩崎電子 補聴器センター
札幌市中央区南2条西3丁目 東南カド

札幌駅前店 札幌市中央区北3条西2丁目 札幌H-Sビル1F
新札幌店 札幌市厚別区厚別中央1条6丁目 ホクノービル3F
手稲店 札幌市手稲区前田1条12丁目
元町店 札幌市東区北22条東16丁目1-10 メーフル元町1F
旭川店 旭川市宮下通9丁目 キタノビル1F
函館店 函館市杉並町8-20 オカダビル
苫小牧店 苫小牧市表町5丁目-1
室蘭店 室蘭市中央3丁目25-1 ヒルビル

お問い合わせ 0120-231-282
岩崎電子株式会社
札幌市中央区南2条西3丁目南東カド

公益財団法人北海道対がん協会

事務局長 加藤 元嗣
札幌市東区北26条東14丁目1-15
電話 011(748) 5511

旭川がん検診センター
旭川市末広東2条6丁目6番10号
電話 0166(53) 7111

釧路がん検診センター
釧路市愛国東2丁目3番1号
電話 0154(37) 3370

バッグの製作・修理等・革製品で
お困りの方はご相談ください

NPO法人 砂川つばさ
砂川市東五条南四丁目二一十二
FAX 電話 (0125) 741-6935
A 電話 (0125) 741-6935
X 電話 (0125) 741-6935

HOP
ホップ障害者地域生活支援センター
札幌市東区北十四条東十四丁目二五 光星ビル
TEL (011) 748-6220
FAX (011) 748-6221

だれもが住み良いまちづくりを応援します
ご利用者様と共に歩める介護ヘルパー募集中!
特定非営利活動法人

◆ 障害者支援施設
◆ 障害福祉サービス事業所
◆ 特別養護老人ホーム
◆ 障害児通所支援事業
◆ 救護施設 他

施設利用、見学等をご希望の方は
お気軽にご連絡下さい

社会福祉法人 北海道光生舎
☎079-1135
赤平市錦町2丁目6番地
TEL 0125-32-3221

社会福祉法人 北海道宏栄社
〒047-0011 小樽市天神2丁目8番2号
電話 0134-1251-1551
FAX 0134-1291-3284

障害者支援施設

有限会社 岩見沢義肢
岩見沢市緑が丘四丁目三二一-14
電話代表 (0126) 221-1550 番